

北興化学工業株式会社

2025年11月期 第2四半期(中間期)
決算説明資料

2025年7月11日

東証スタンダード 証券コード4992



北興化学工業株式会社

決算説明資料目次

I .2025年11月期 第2四半期(中間期)決算 ハイライト	2
II .第2次3カ年経営計画(2024～2026年度) への取り組み(トピックス)	9
III.【参考資料】 2025年11月期 第2四半期(中間期)決算 データ編	12

I 2025年11月期 第2四半期(中間期)決算 ハイライト



＜1. 連結業績 ①概況＞

➤ 売上高

農薬事業における販売が伸長(前年同期比+1,779百万円)したことから、30,666百万円、前年同期比1,728百万円(+6.0%)の**増収**

◆農薬事業は、これまでの普及推進活動の成果に加え、米価上昇を受けた防除意欲の高まりが後押ししたことから、国内販売は水稻剤、園芸剤ともに好調に推移。海外販売も中南米向け(ブラジル等)の受注増加により、**増収**。

◆ファインケミカル事業は、医農薬分野の需要が回復したものの、樹脂分野等が海外経済減速や価格競争の影響を受けて減少したことや、中国子会社における中国国内販売が減少したことから、**減収**

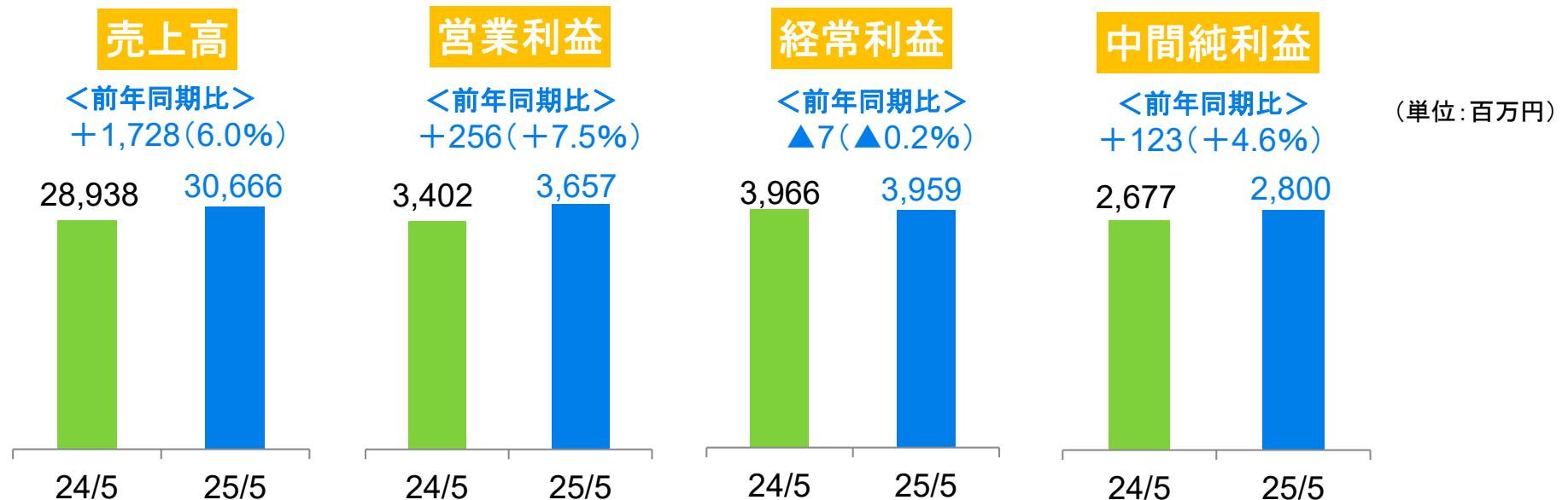
◆繊維資材事業は、主に産業用繊維素材の販売が増加したことから、**増収**

➤ 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益

営業利益は、農薬事業の売上高増加や利益率改善により、3,657百万円、前年同期比256百万円(+7.5%)の**増加**。

経常利益は、為替差損(111百万円)の計上により、3,959百万円、前年同期比7百万円(▲0.2%)の**減少**。

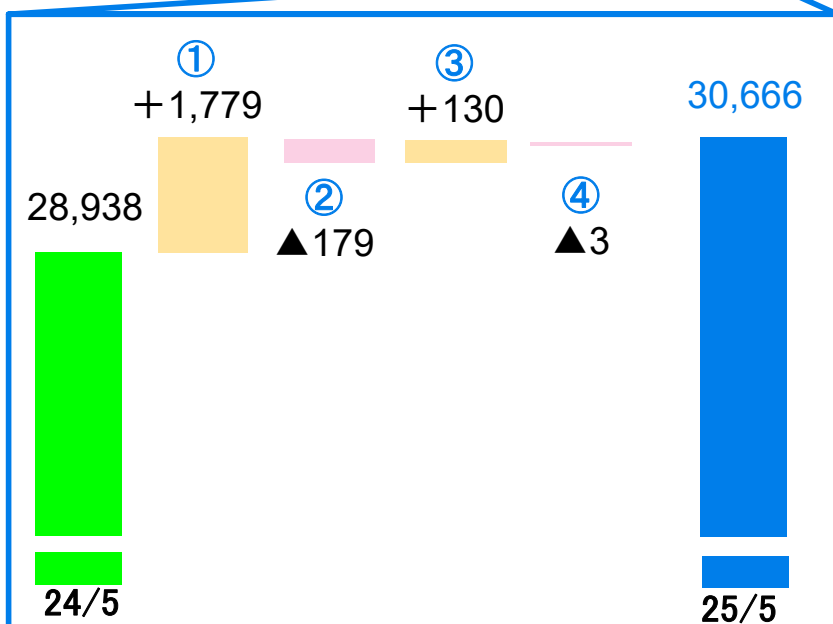
親会社株主に帰属する中間純利益は、投資有価証券売却益(105百万円)の計上により、2,800百万円、前年同期比123百万円(+4.6%)の**増加**



<1. 連結業績 ②売上高 増減要因>

(単位:百万円)

	2024年度 中間期	2025年度 中間期	前年同期比
① 農 薬 事 業	19,500	21,279	+1,779
② ファインケミカル 事 業	8,586	8,407	▲179
③ 繊維資材事業	846	976	+130
④ そ の 他	6	3	▲3
合 計	28,938	30,666	+1,728



①農薬事業 +1,779百万円 増収

- ・国内販売+1,611百万円
- ・海外輸出+156百万円
- (以上、単体)

②ファインケミカル事業 ▲179百万円 減収
増加

- ・医農薬分野+658百万円
(有償支給額控除前+904百万円)
- ・電子材料分野+120百万円
- 減少
- ・樹脂分野▲745百万円
(以上、単体)
- ・中国子会社▲57百万円

※詳細はP8を参照

③繊維資材事業 130百万円 増収
主に産業用繊維素材の販売が増加

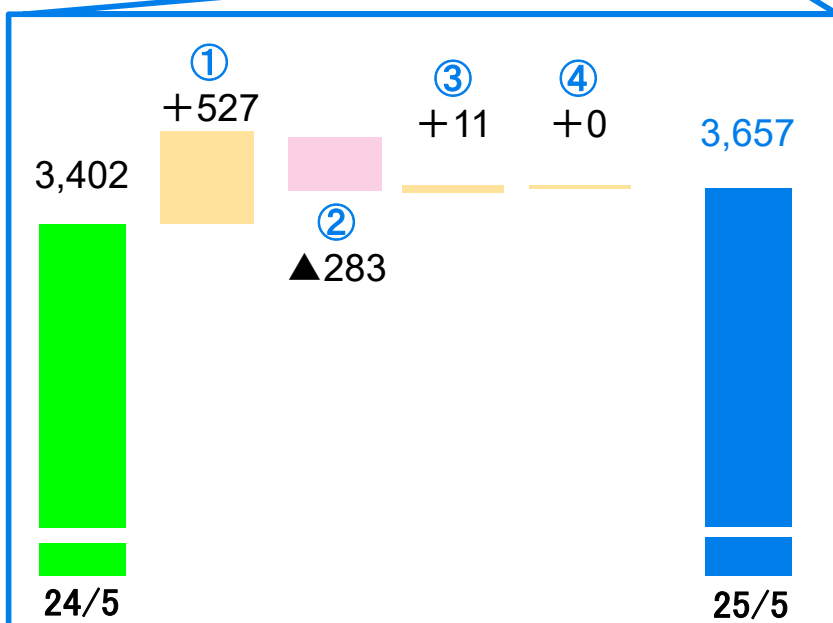
④その他 ▲3百万円 減収



< 1. 連結業績 ③営業利益 増減要因 >

(単位: 百万円)

	2024年度 中間期	2025年度 中間期	前年同期比
① 農 業 事 業	1,184	1,712	+527
② ファインケミカル 事 業	2,191	1,908	▲283
③ 繊維資材事業	33	44	+11
④ そ の 他	▲6	▲6	+0
合 計	3,402	3,657	+256



①農業事業 +527百万円

売上高の増加や利益率改善(工場稼働率アップ)により増益

	2024年度 中間期	2025年度 中間期
営業利益	1,184	1,712
※受取手数料 (営業外収益)	177	201
受取手数料込 営業利益	1,361	1,913

(単位: 百万円)

※製品の普及拡大支援のため、仕入れ先から受け取る手数料。経営管理上、営業利益に加算して管理

②ファインケミカル事業 ▲283百万円

樹脂分野(石化用触媒等)等の売上高減少に加え、前年度第2四半期(3~5月)が好業績であった影響もあり減益

③繊維資材事業 +11百万円

売上高の増加により増益

④その他 +0百万円

< 参考 > 営業利益の連単差

2025年度 288百万円(連結3,657 - 単体3,369)

2024年度 552百万円(連結3,402 - 単体2,850)

前期比 ▲263百万円

※主に中国子会社の減益が要因

(参考)中国子会社の前年度第2四半期(3~5月)は、石化用触媒(TPP)のスポット需要があり、好業績であった。



＜2. 連結業績:セグメント別＞

(単位:百万円)

売上高

【農薬事業】



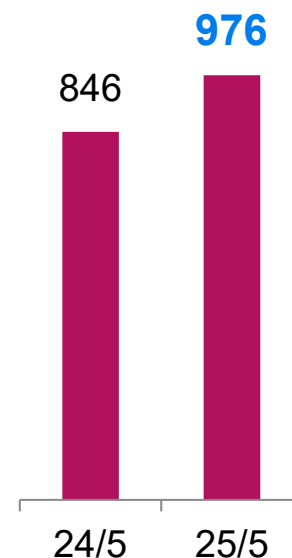
＜前年同期比＞
+1,779
(+9.1%)

【ファインケミカル事業】



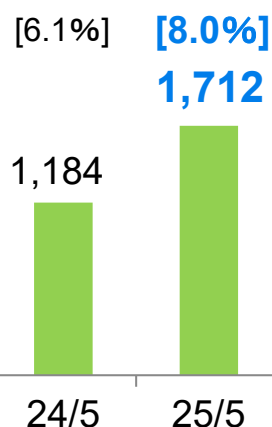
＜前年同期比＞
▲179
(▲2.1%)

【繊維資材事業】

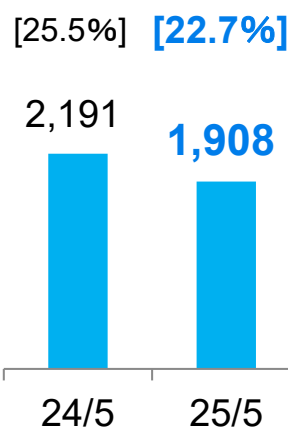


＜前年同期比＞
+130
(+15.4%)

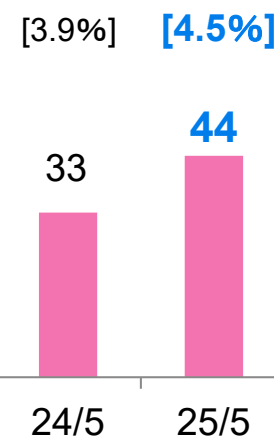
営業利益



＜前年同期比＞
+527
(+44.5%)



＜前年同期比＞
▲283
(▲12.9%)



＜前年同期比＞
+11
(+34.5%)

※営業利益額上方のカッコ内の%表示は、営業利益率



北興化学工業株式会社

＜2. 連結業績:セグメント別 ①農薬事業トピックス＞

➤ 国内販売

水稲剤(主に除草剤および水稲育苗箱剤)、園芸剤(特に除草剤ザクサ液剤)の販売がともに好調に推移し、**増収**。水稲剤においては、米価上昇を受けた防除意欲の高まりが後押しした。

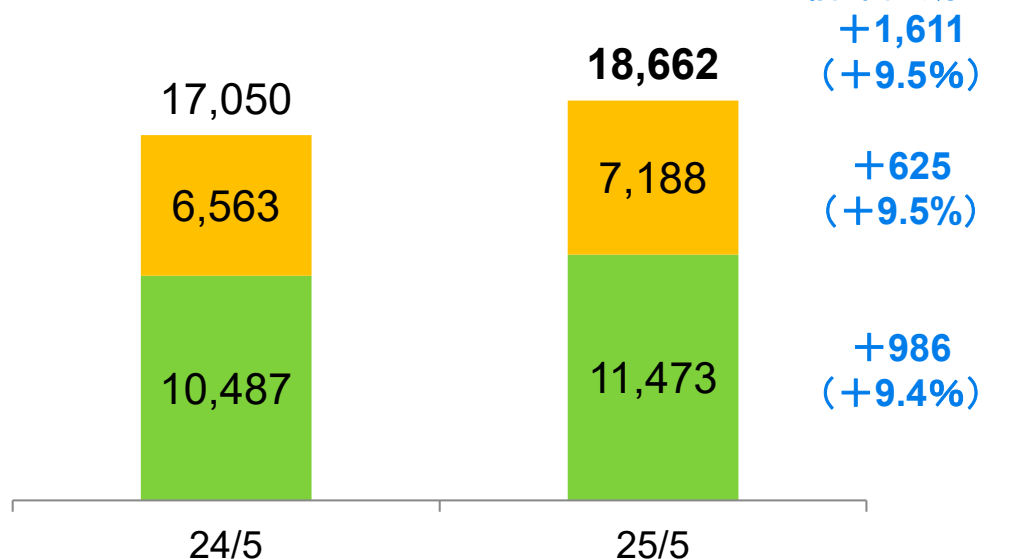
➤ 海外輸出

中国経済減速の影響を受け中国向けが減少したものの、ブラジル向けの伸長や前期天候不順の影響を受けたメキシコ向けの回復など、中南米向けを中心に堅調に推移し、**増収**

国内販売(単体) (単位:百万円)

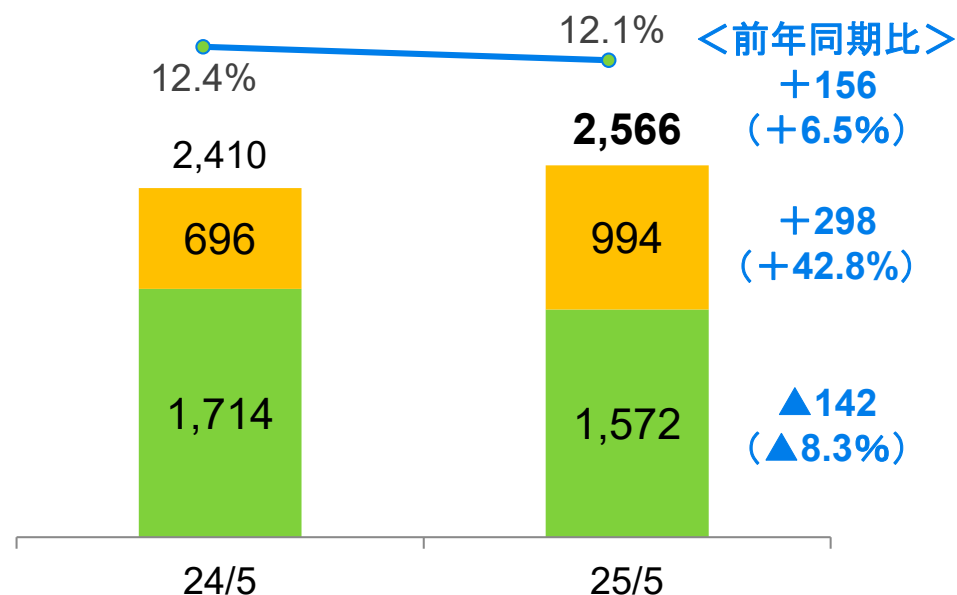
■ 水稲 ■ 園芸

＜前年同期比＞



海外輸出(単体) (単位:百万円)

● 輸出割合 ■ アジア ■ その他



*上記の水稲・園芸別売上高は、国内農薬の総売上高比率により算出した、経営管理上の数値です



＜2. 連結業績:セグメント別 ②ファインケミカル事業トピックス＞

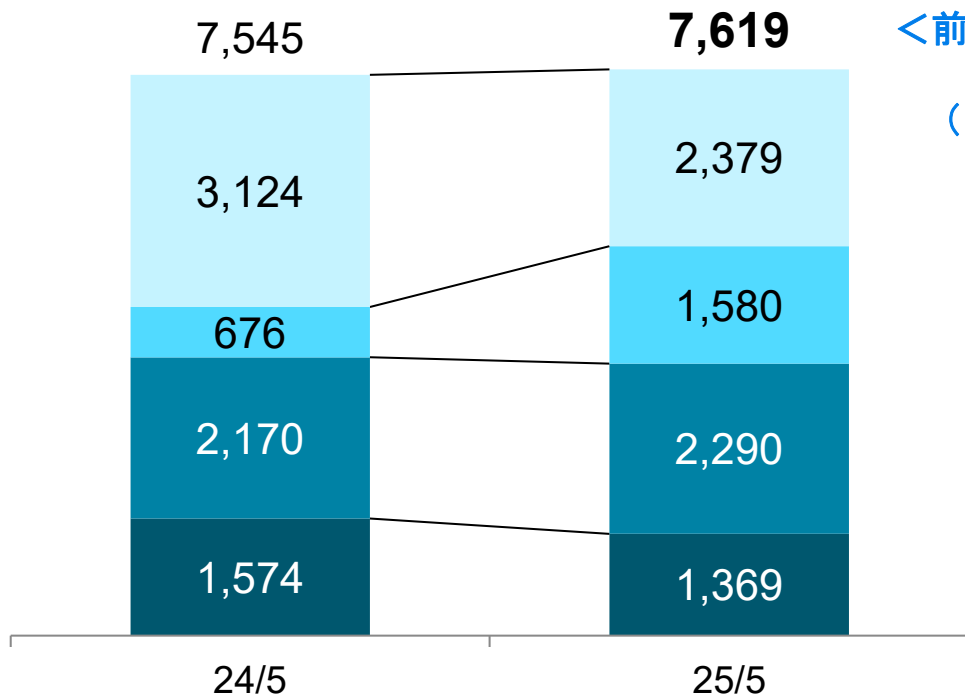
- 単体の売上高は、前期並み(有償支給額を控除した売上高は減収)
- 樹脂分野の石化用触媒およびその他樹脂原料は、海外経済減速や価格競争の影響を受けて需要が減少し、前期の韓国向けスポット需要(石化用触媒)の剥落もあり、減少
- 医農薬分野の農薬は、需要の回復(前期は取引先の需要変動により減少)等により、増加
- 電子材料分野のフォトレジスト用モノマー原料は、取引先の在庫調整の影響が続き、微減

分野別売上高(単体)

(単位:百万円)

■樹脂 ■医農薬 ■電子材料 ■その他

＜前年同期比＞
+74
(+1.0%)



＜主な前年同期比増減内容＞

◆樹脂分野: ▲745百万円(▲23.8%)

- ・石化用触媒: ▲363
- ・その他樹脂原料: ▲316
(塗料、コーティング剤等)

◆医農薬分野: +904百万円(+133.7%) (原料および中間体)

- ・医薬: +17
- ・農薬: +887

◆電子材料分野: +120百万円(+5.5%)

- ・半導体関係: ▲25
(半導体封止剤用の硬化促進剤)
- ・フォトレジスト用のモノマー原料: ▲25
(うちKrF用途▲124)

- ・その他: +185
(プリンター感光材、オフセット印刷用等)

◆その他: ▲206百万円(▲13.0%)

- ・食品飼料: ▲58
(TPP: ビタミンA、ベータカロチン用途等)
- ・防汚剤: ▲87
- ・化粧品: ▲88

*分野別 … 総売上高を当社の判断により各分野に分類しております。なお、上記総売上高には、収益認識に関する会計基準により売上高から控除される有償支給額等(2024/5月:0百万円、2025/5月:246百万円)が含まれております。



Ⅱ 第2次3カ年経営計画(2024 ～2026年度)への取り組み (トピックス)



*赤下線部は2025年1月14日公表の「2024年11月期決算説明資料」からの更新事項

<1. 岡山工場ファインケミカル事業専用化(Step1)の推進>

- KrFレジスト用原料専用の新工場建設を進めており、2027年1月に竣工予定。既存工場を加えたKrFレジスト用原料の生産能力は概ね2倍になり、2032年度の同製品売上高44億円を目指す(2024年度実績19億円)
- 岡山工場の持続的な生産能力増強および原価低減に向けた生産設備の再構築が着実に進展
 - ✓ イソブチレン供給設備新設(2025年7月稼働)⇒半導体素材原料の生産能力向上、原価低減
 - ✓ 酸化エチレンタンク新設(2026年度着工予定)⇒合成反応の原料供給体制整備
 - ✓ 再生油ボイラー導入(1基目:2024年9月稼働、2基目:2026年度着工予定)⇒原価低減、省エネ
- 工場内施設(危険物倉庫等)の再配置推進



合成第10工場イメージ図

＜2. 農薬事業の収益性向上に向けた事業の再構築＞

➤ 国内農薬の生産体制の抜本的な見直しと成長する海外市場での売上拡大を柱とする事業再構築を推進

- ① 生産拠点の集約化に向けたロードマップを決定。北海道工場の2つの生産ラインを廃止し、岡山工場に残る1つの農薬生産ラインを新潟工場に機能集約する計画。国内農業における厳しい環境に対応し、生産体制・生産設備の最適化を図るとともに、自動化・省人化等の設備投資(工場および研究所)を進め、コストダウンを徹底する。また、2拠点化を見据えた北海道工場・新潟工場の生産設備・関連施設の再構築を計画的に進める
- ② 成長ドライバーの自社原体イプフェンカルバゾン(水稻用除草剤)の海外登録国拡大を推進(世界最大の稲作地帯であるアジアを中心に登録を推進。2024年4月インド、2025年4月パナマで新規取得し登録国は6カ国に拡大)。収益性の高い海外売上高の比率を引き上げていく(農薬事業の海外売上高比率 15.5%(2024年度))

＜3. 岡山工場ファインケミカル事業専用化Step2の方向性＞

➤ 次期3ヵ年経営計画(2027～2029年度)の専用化Step2として、農薬事業の生産体制を2拠点(北海道工場、新潟工場)に集約し、岡山工場のファインケミカル事業専用化を実現して同事業の持続的な生産能力増強を目指す

《岡山工場の農薬生産機能》

- ① 除草粒剤生産ライン⇒北海道工場(2022年10月新ライン竣工)に移管終了
- ② 一般粒剤(育苗箱剤)⇒新潟工場での生産開始を推進(2030年度を目途)

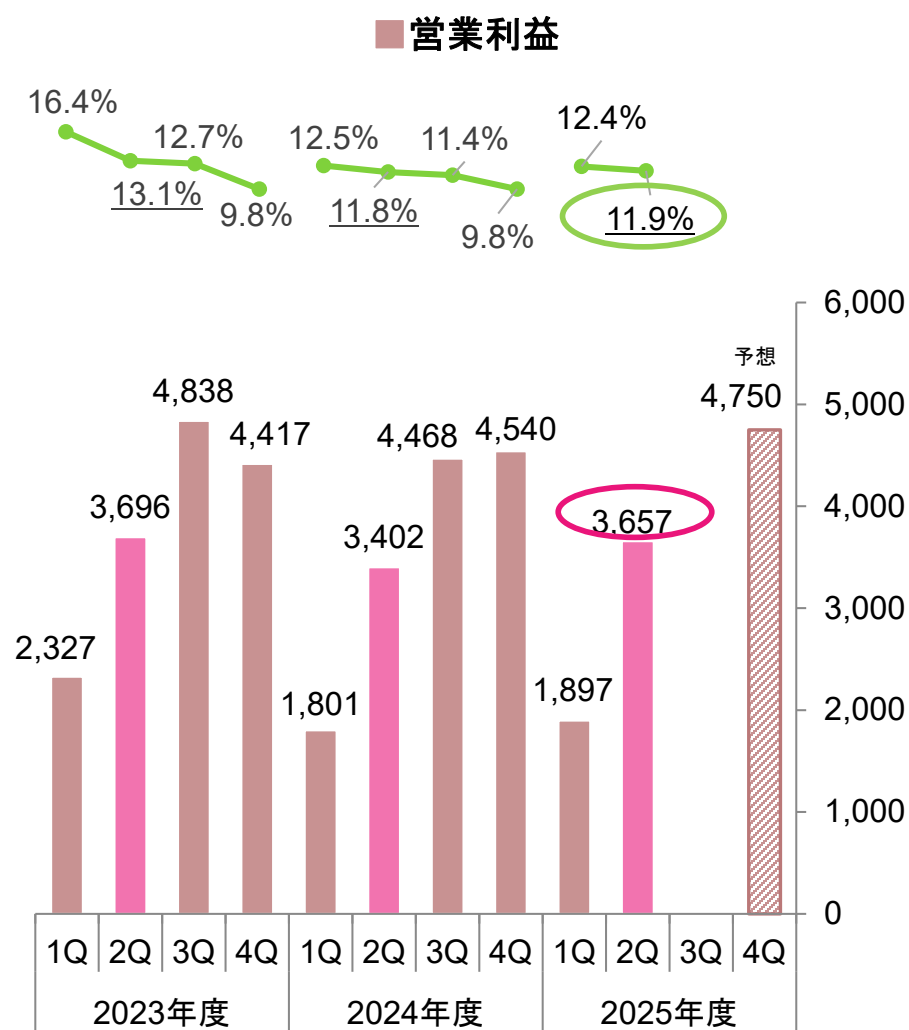
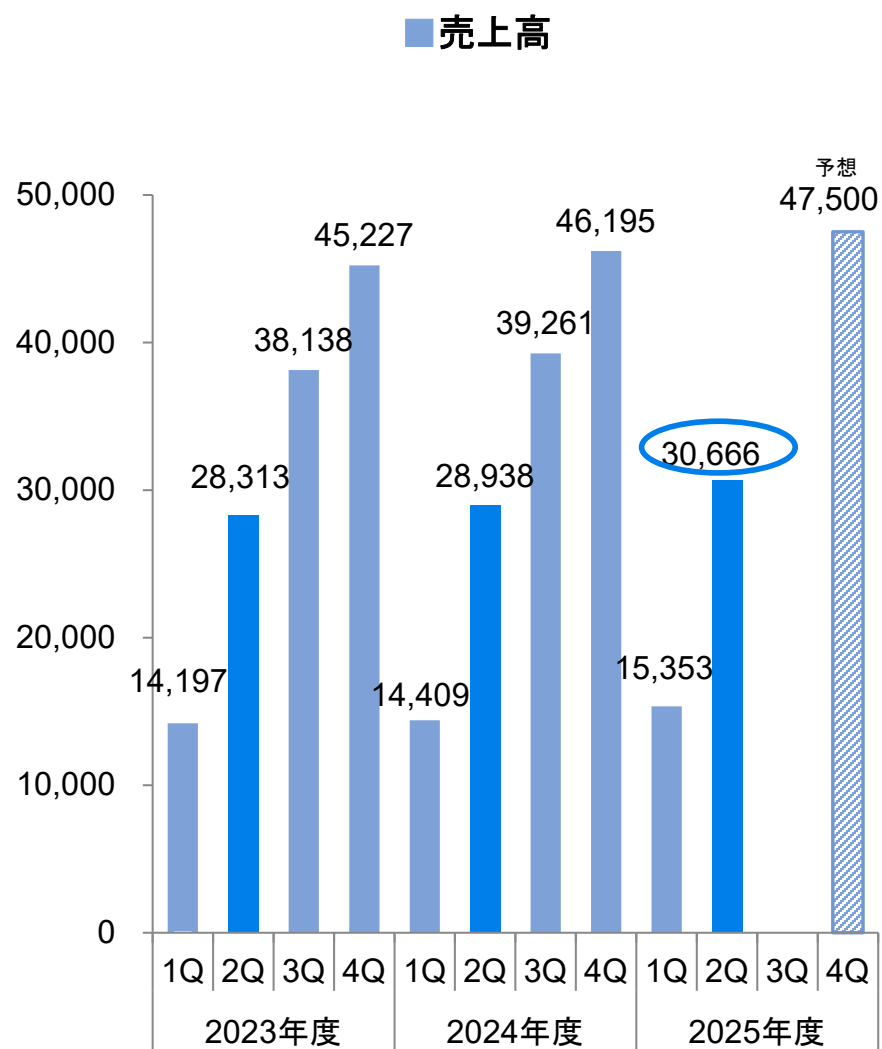


Ⅲ 【参考資料】
2025年11月期
第2四半期(中間期)決算
データ編

＜①連結業績の進捗状況＞

※金額は各四半期時点における累計値

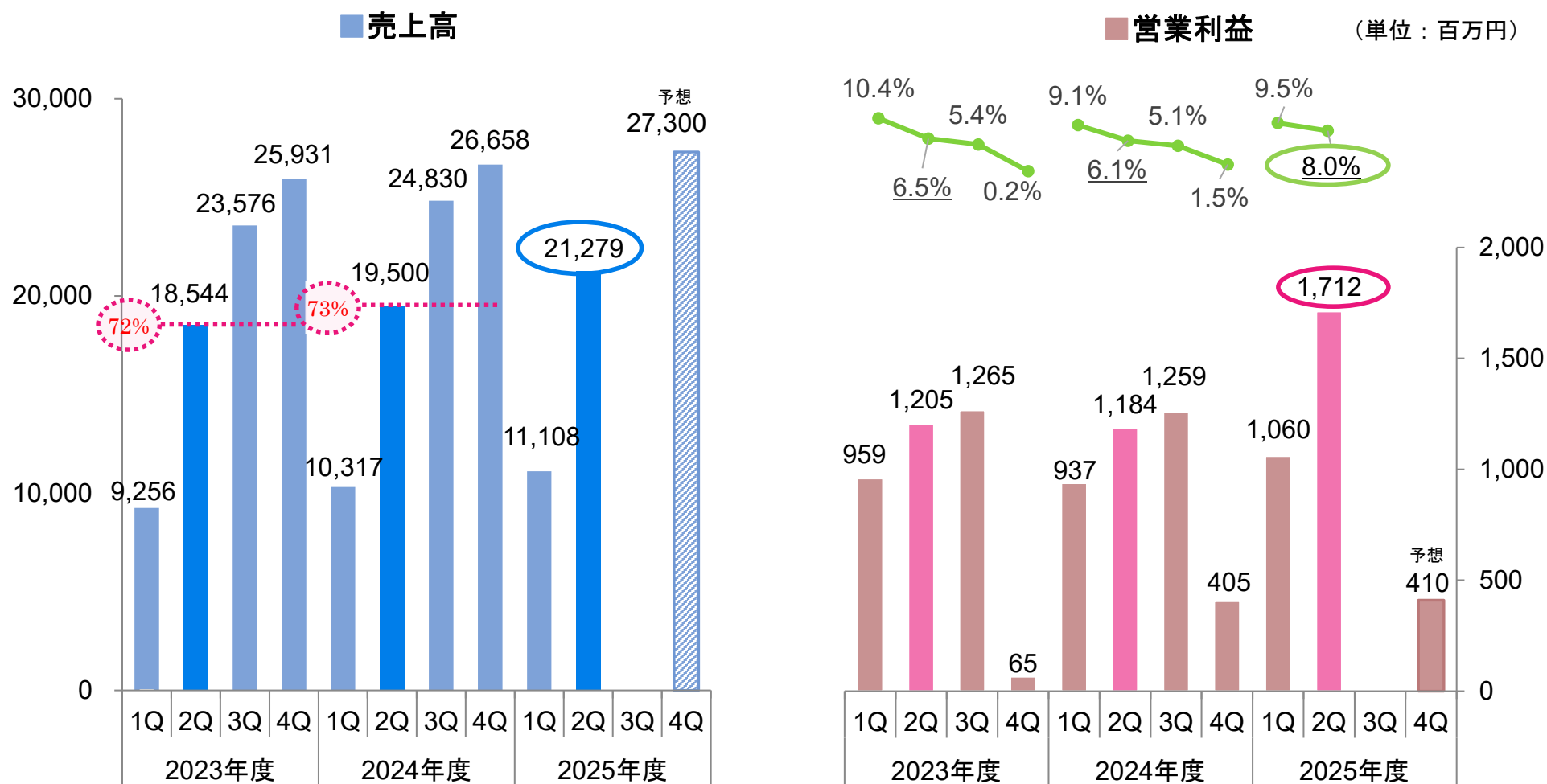
(単位：百万円)



＜②連結セグメント別業績推移：農薬事業＞

※金額は各四半期時点における累計値

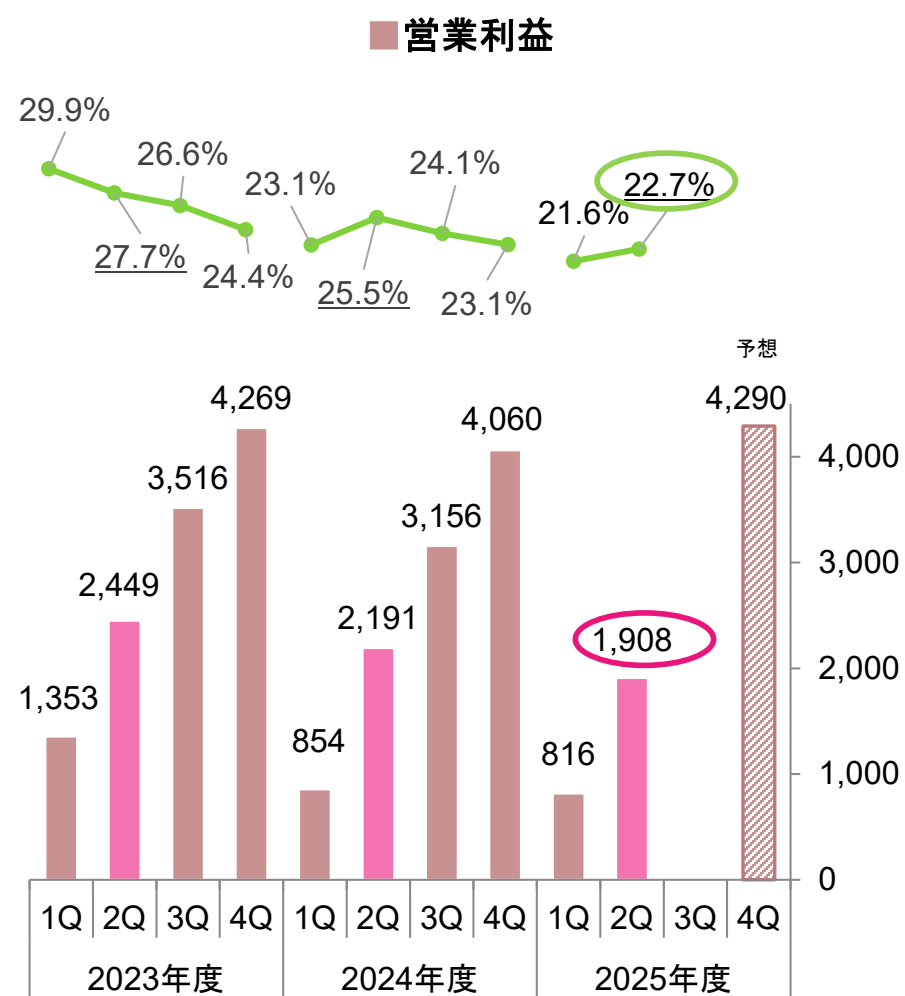
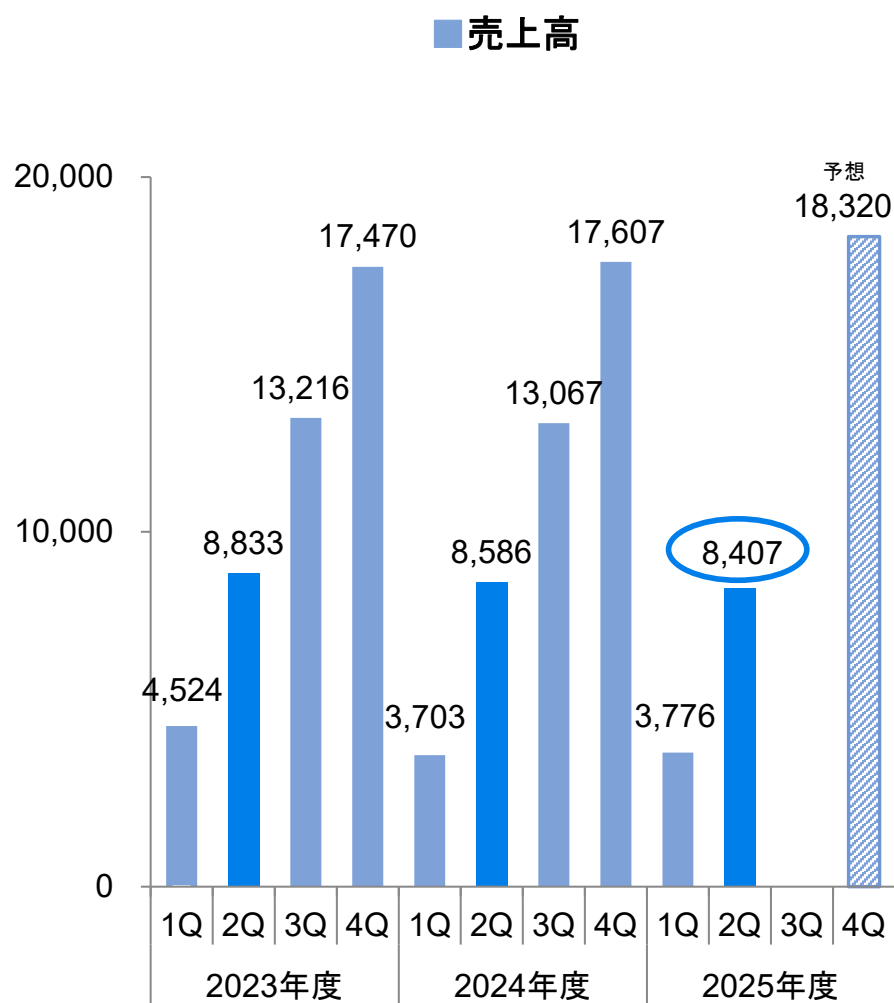
農薬の販売は第1～第2四半期が主に予約販売(主に水稻剤)となり、同期間の売上高は年間売上高の約7割を占めている。第3四半期以降の農作業期(6月～9月頃まで)は、当用販売が中心となる。



＜③連結セグメント別業績推移：ファインケミカル事業＞

※金額は各四半期時点における累計値

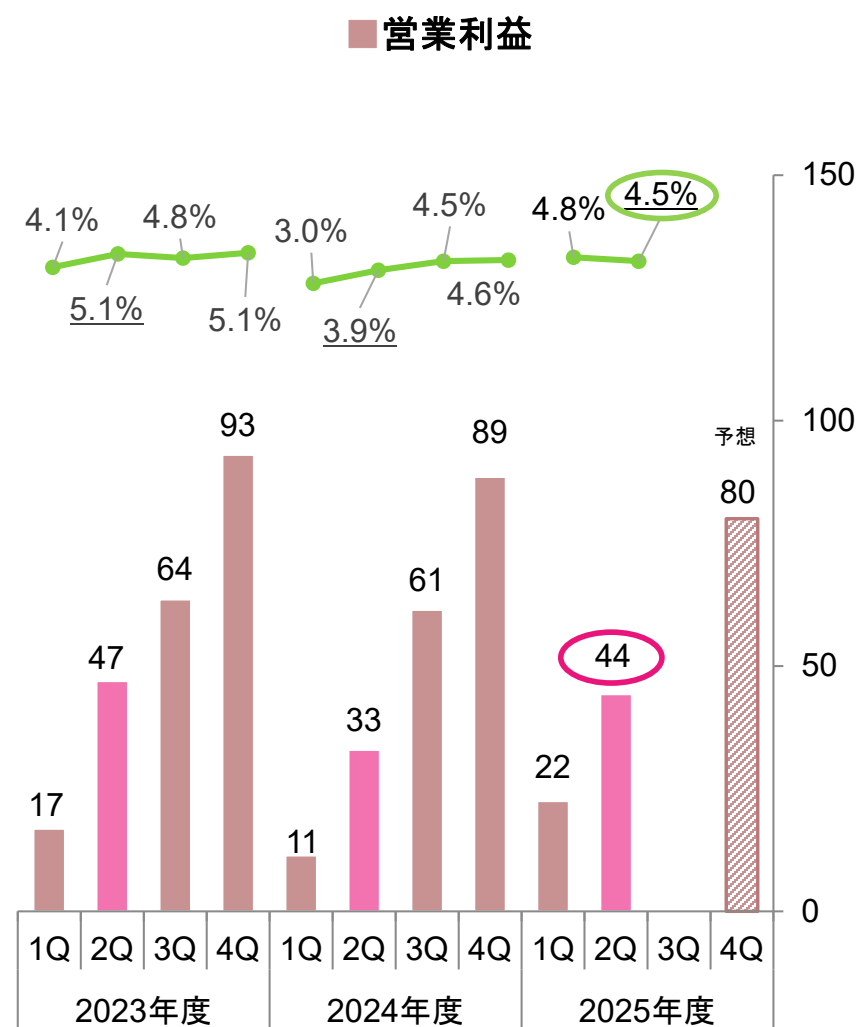
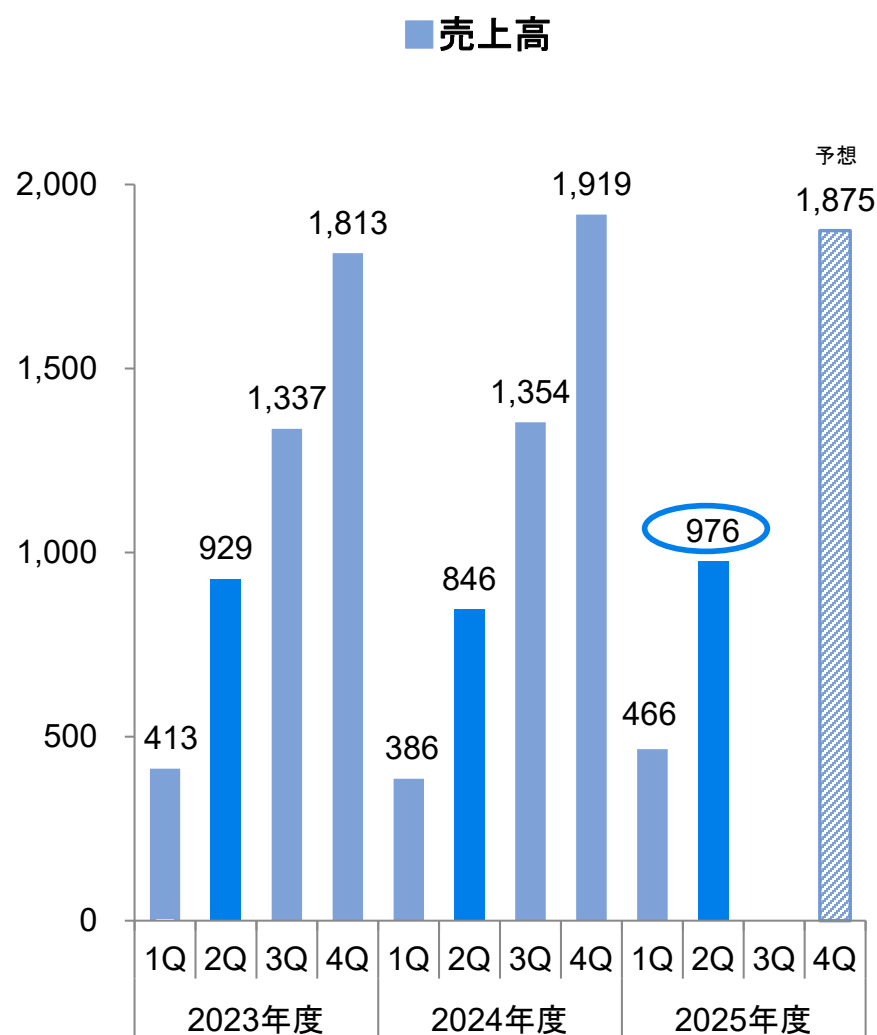
(単位：百万円)



＜④連結セグメント別業績推移：繊維資材事業＞

※金額は各四半期時点における累計値

(単位：百万円)



＜⑤連結セグメント別業績推移…四半期毎＞

第2四半期(3～5月)

- 農薬事業は、国内販売が水稻剤、園芸剤ともに好調に推移したことなどから、**増収**
- ファインケミカル事業は、樹脂分野等の需要減少に加え、中国子会社の前期2Qが好業績(石化用触媒(TPP)のスポット需要)であった影響もあり、**減収**

(単位:百万円)

〔①2025年度〕

〔②2024年度〕

〔①－②前年同期比〕

セグメント	項目	1Q	2Q	2Q累計	1Q	2Q	2Q累計	(参考) 3Q	(参考) 4Q	1Q	2Q	2Q累計
農薬事業	売上高	11,108	10,171	21,279	10,317	9,183	19,500	5,330	1,828	+791	+988	+1,779
	営業利益 (利益率)	1,060 (9.5%)	652 (6.4%)	1,712 (8.0%)	937 (9.1%)	247 (2.7%)	1,184 (6.1%)	75 (1.4%)	▲854 (▲46.7%)	+123 (+0.5%)	+405 (+3.7%)	+527 (+2.0%)
ファイン ケミカル 事業	売上高	3,776	4,631	8,407	3,703	4,883	8,586	4,481	4,540	+74	▲252	▲179
	営業利益 (利益率)	816 (21.6%)	1,092 (23.6%)	1,908 (22.7%)	854 (23.1%)	1,337 (27.4%)	2,191 (25.5%)	964 (21.5%)	904 (19.9%)	▲38 (▲1.5%)	▲245 (▲3.8%)	▲283 (▲2.8%)
繊維資材 事業	売上高	466	510	976	386	460	846	508	564	+81	+49	+130
	営業利益 (利益率)	22 (4.8%)	22 (4.3%)	44 (4.5%)	11 (3.0%)	22 (4.7%)	33 (3.9%)	29 (5.6%)	27 (4.8%)	+11 (+1.9%)	+0 (▲0.4%)	+11 (+0.6%)



＜⑥連結業績予想対比の進捗状況＞

＜進捗状況＞

業績予想に対する中間期の進捗率は、売上高は前年同期を上回ったが、各利益段階では下回った。

〔2025年度〕

＜参考：前年同期＞

（単位：百万円）

	2025年度 中間期	2025年度 業績予想	進捗率		2024年度 中間期	2024年度 業績予想	進捗率
売上高	30,666	47,500	64.6%	売上高	28,938	46,000	62.9%
営業利益 (売上高比)	3,657 (11.9%)	4,750 (10.0%)	77.0%	営業利益 (売上高比)	3,402 (11.8%)	4,120 (9.0%)	82.6%
経常利益 (売上高比)	3,959 (12.9%)	5,700 (12.0%)	69.5%	経常利益 (売上高比)	3,966 (13.7%)	5,100 (11.1%)	77.8%
親会社株主に 帰属する 中間純利益 (売上高比)	2,800 (9.1%)	3,850 (8.1%)	72.7%	親会社株主に 帰属する 中間純利益 (売上高比)	2,677 (9.2%)	3,450 (7.5%)	77.6%



本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

■ お問い合わせ先

北興化学工業株式会社

企画部 IR担当

電話: 03-3279-5151

FAX: 03-3279-5195

